**釜ヶ崎反失連ニュース　１９９７．６．１６**

**仕事をよこせ！まともなメシと寝どころを！**

**府-市はアブレ-野宿の激増に有効に対応できる施策を、はやくつくれ！**

仲間の皆さん！連日の市更相行動、ご苦労様でした。窓口闘争の成果をもとに本庁闘争へとつき進もう。

去る13日の市更相窓口との交渉は、

（１）市更相として広汎なアブレ-失業にもとずく困窮者に対して、どう対応していくのか

（２）緊急対策として行っているセンターの夜間利用-カンパン支給の現実的な改善策－パン券・ドヤ券について

（３）今後とも非常時に即対応できる有効な施策の確立について、

話しあった。

席上、市更相の橋本所長は（１）について、

『４月に市更相に来た。現状をみたとき公共事業の減少・消費税のアップ等にともない仕事が無くなった。相談窓口として、生活保護の窓口として、いまある施設の活用をしていかんと大きなことになると思ってやってきた。昨年に比べて五倍以上の努力をしてきた。

市更相はあいりん地区の生活困窮者の生活相談窓口である。しかし、今ある市更相のあり方は、広汎な失業者に対応する有効な機能はもってない。

現段階では市更相条例に基づいて高齢・病弱者を中心にやらんとアカン現状。しかも、それすら充分にやりきれていない現状だ。

通常業務での機能の内実をはかっていくと同時に、非常事態（困窮者の激増）に対応できる施策をもっていないとダメだと思う。本庁ならびに関係機関にその必要性を言っていく。

窓口の責任者として、みなさんの思いを更相一丸となって本庁などへ訴えることが私の責任者としての任務と思う。

私として、今回の教訓を生かし、みなさん方から「市更相もよくやってるで、変わってきているではないか」と一日でも早く言われるよう一所けん命頑張っていきます。』

（２）については、本庁の堀田課長代理が、

『（イ）カンパンについては、センター夜間利用者に限って7月末まで一日１２００個をめどに運ばせてもらう。

（ロ）毛布について、局をあげて職員の家でねむっている物を供出していきたい。職員のボランティアで千枚を目標に呼びかけていく。

（３）については、施設の拡充ということでやってきたが限界がある。センターの利用という臨時対策で緊急対応させてもらった。

これは、市をあげての判断であり、府も共通の認識だ。

今後の緊急事態については、府・市協議で対応していく。

求人動向の回復がすべてであり、そういう面で努力していく。市発注の公共工事へ日雇いが吸収されるよう指ドしていく。

今後のことについては、本庁で対応させていただく。』

以上